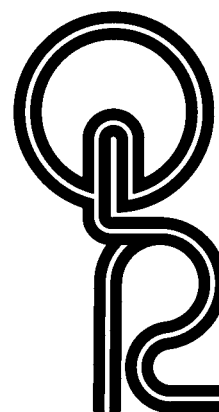


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 19 No.6, 2012



猪苗代湖湖底堆積物の掘削台船。最深部に近い水深 90m 地点で、約 30m のコア試料を 2 本掘削した。本年 12 月に福島大学で行う古気候変動研究委員会のワークショップにおいてコア試料を公開する。(2012 年 9 月撮影：長橋良隆)

Vol. 19 No. 6

December 1, 2012

INQUA 分科会	2	教員公募	6
第四紀研究 前編集書記より	2	幹事会議事録	7
古気候変動研究委員会	4	会員消息	7
Island Arc 新名称公募	5		

◆第 22 期第 2 回日本学術会議地球惑星科学委員会 INQUA 分科会報告

平成 24 年 10 月 20 日（土）13:30～16:00
 明治大学アカデミーコモンズ 7 階 研究知財会議室
 出席者：奥村晃史、斎藤文紀、海津正倫、佃 榮吉、
 春山成子、北里 洋、佐竹健治、渡邊眞紀子（幹
 事、記録）
 オブザーバー：遠藤邦彦、太田陽子、小野 昭
 欠席：安成哲三、鈴木康弘、小口 高、熊木洋太

議題

1. 前回議事録に必要な修正を加えて確定した。
2. INQUA 研究委員会・プロジェクト対応について。
 Coastal and Marine Process Commission 副委員長
 に横山祐典、Terrestrial Process Commission 副委
 員長に吾妻 崇（TERPRO）が選出されたこと、小
 野 昭と出穂雅実による 2 件の提案が INQUA プ
 ロジェクトに採択されたことが報告された。
3. 国際第四紀学連合第 19 回大会 INQUA への準備
 状況について。
 斎藤委員より、資料 2 および参考資料（組織委員

会検討資料）にもとづいて、第 19 回国際第四紀
 学連合大会 2015 への準備状況、大会組織委員会
 の組織体制、予算案等について説明がなされた。
 4. 2015 年第 19 回 INQUA 大会の学術会議共同主
 催提案について申請の手続きを確認した。
 5. 日本第四紀学会から提出が予定されている申請
 書案の記載内容と提出資料内容について検討した。
 6. [その他] 第四紀の新しい年代区分として
 Anthropocene の検討が国際層序委員会のワーキ
 ンググループで行われており、2016 年の IGC ま
 でに答申の予定。水月湖の年縞を用いた放射性炭
 素年代の較正が確立し、Ramsey ほかにより 10 月
 19 日に Science 誌上に公表された。水月湖の堆積
 物は完新統の基底の副模式地の一つに認定されて
 おり、日本の堆積物が地質年代の基準となること
 は画期的な成果である（斎藤副委員長報告）。
 7. 次回会合 平成 24 年 12 月 28 日 10:00～12:00
 を予定

◆今までの人生の半分は編集書記だった

8 月の 2012 年大会総会・懇親会における皆様
 の温かい拍手を背に、「第四紀研究」26 巻 4 号
 (1988) から 51 巻 4 号 (2012) まで 135 冊の
 編集を終えて無事退職いたしました。この間、健
 康に恵まれ、多くの人々に支えられて、「大好きな
 仕事」に邁進することができ、心から感謝してお
 ります。

1987 年の 8 月頃でしょうか、小泉武栄さん（編
 集幹事）から「地理学会のようなお給料は払えな
 いけれど…」と編集書記の打診がありました。「地
 理学評論」（1976 年 4 月～1986 年 3 月）の編集
 経験があるとはいえ、地理学の「専門店」から 11
 分野を抱える第四紀学「デパート」への転職には
 大きな不安がありました。さらに、在宅勤務とい
 うことで、すぐ傍に相談相手もいません。いろ
 いろ悩みましたが、叶内敦子さん（前編集書記）、真
 野勝友先生（編集幹事）に教えを乞うて、再び編
 集書記になりました。

故米倉伸之先生と太田陽子先生は、「地理学評論」
 の編集委員（1976～）だった頃から、何かと心
 に掛けていただきました。米倉先生は「まあま
 …」といいながら愚痴を聞いて下さり、最後のお
 別れの時に「先生、もう愚痴をこぼしません」と
 約束しました。これから、米倉先生の方まで頑張
 るうと思いました。50 周年大会で表彰されました
 が、「米倉先生がいらしたら…」とつくづく思
 いました。

書記になった頃は活版印刷でした。原稿を片手
 に、植字工が版サイズの木枠の中に鉛文字を一つ
 一つ拾って組版を作り、印刷します。類似した文
 字を拾ったり、文字の向きが逆になることがあり、

綿引裕子（第四紀研究 前編集書記）

このような誤植を初校紙で正しく直すのが書記の
 仕事でした。論文の内容が頭に入っていないと、
 先の展開がわからずに誤植を見落とすので、神経
 を使いました。そのため、入稿時には 5～6 回集
 中して論文を読みこなししました。簡潔で読みやす
 い文章はその後の工程でも間違いが少なく、著者
 の意図が読み取りにくい文章はその分時間がかか
 ります。読者の立場になって推敲を重ねると、文
 章はみちがえるようになります。



日本第四紀学会熊谷大会にて（撮影：奥村）

誤植のないデータ印刷になった今日でも「読みこなし」は大事です。完成度の高い入稿原稿は、初校の完成度を高めます。この作業を通じて、「第四紀研究」の掲載論文には「他分野の読者も惹きつける読みやすさ」が重要ではないか、と思うようになりました。優れた内容はもちろんですが、理解しやすい文章と見やすい図表は、他分野の読者にとって、理解を深めるための大きな役割を果たします。

「読みやすい誌面づくり」には、印刷技術の進歩と図表づくりのPCソフトの多様性は追い風になりました。いかにレイアウトをするか、著者と書記の真剣勝負です。字数と行数を数えて「気がついたら徹夜」もたびたびでした。「印刷映えのするポイント」を踏まえた図表づくりの必要性を感じました。そこで投稿受付時から、「読みやすい誌面」を想定して書記コメントを書くようにしました。以下に、そのポイントを列挙します。参考になれば幸いです。

■受付時：本文を読み、

- ①本文の枚数と図表の枚数の確認。適切な位置に図表を挿入するために重要。
- ②図の挿入位置の確認。
- ③図表と図表タイトル、キャプションの確認。
- ④引用文献の確認。

①本文枚数の割に図表が多く、かつ大きい場合は適切な位置に挿入できない。原則は引用順に図表を挿入するが、本文と図表の位置が離れる可能性大。図表を精選するか、組図（表）にしてコンパクトにまとめること。

②挿入場所によって図表のおおよその縮小率を想定。1ページに複数の図表を挿入する場合は、①と同様に組図（表）を提案したり、ページに収まる縮小率にする。決定した縮小率でコピーをとり、図・文字の大きさ、線の太さ、凡例（模様）の鮮明さをチェックする。

図と文字のバランスがとれているかが重要。図のサイズの割に、文字が小さすぎると見栄えのしない図になり、その逆は煩雑な図になる。下図の線と文字が重なる場合、下図の模様で文字が見にくくなる場合は要注意。白文字・黒文字・白ヌキにするなど、文字を目立たせ見やすい図になるよう要工夫。

表はコンパクトにまとめる。横長の表は項目の間を、縦長の表は行間をあきすぎないように注意。煩雑にならないように罫線の太さに注意し、シンプルな表にする。表下の注は表文字と同じ文字タ

イプにし、一体にする。

③複数の図が同一タイトル、あるいは類似した内容の場合などは、図表サイズを考慮の上、組図（表）を提案する。

④引用文献：本文中の文献年代とリストの年代があっているか、本文中の文献はリストにあるか、人名もあっているか。本文中の複数の引用文献は年代順に並べること。リストの書き方チェック（文献の並び順（ABC順）、雑誌名、ページ、発行所）。

■受理後入稿時：

- ①受付時のコメントの確認。査読後に追加された図表のチェックをする。
- ②最終稿を読み、図表の縮小率を決定。文字（タイプ・大きさ）・凡例の模様・線の太さなど、印刷上見にくくなる恐れがある場合は、やむをえず修正を依頼することもある。
- ③調査地域図には、本文中で引用された地名が記載されているか、確認する。
- ④印刷時をイメージし、本文と図表を照らし合わせて最終確認をする。

■最近、「100%希望」と小さめの図表を原図とする著者がいますが、小さすぎて文字が判読できない図表もあります。緻密で縮小できない図以外は縮小した方がきれいに出ます。そのため、縮小し印刷することを考慮した図表を原図にして下さい。

また、最近人気の文字タイプであるタイムスで作成された図表が多く見られます。この図表を縮小・印刷すると、文字（数字）の線の細い部分がより細くなって見えにくくなります。ほかにも、縦の線と横の線の太さに差がある文字（数字）を使用する場合、著者自身で縮小コピーを取って確認した図表サイズにするか、あるいは縮小しても見やすい文字タイプに変更されるようご検討下さい。

退職後も12月末まで、原田仁美編集書記のサポーターとして「第四紀研究」にかかわってききましたが、年明けとともに完全に引退となります。今まで培ってきたノウハウも、日々薄れていくことでしょう。より良い論文を書くために、お役に立てることがありましたら、是非声をかけてください。楽しみに、待っています。

今日まで、実に多くの人々に支えられてきました。仕事をとおして、人間としても成長できた「恩返し」に、これからの若い人々に「恩送り」をしたいと思います。長い間、ありがとうございました。

◆日本第四紀学会古気候変動研究委員会の2012年度ワークショップのご案内
「更新世後期～完新世の古気候指標の統合と気候編年」

2012.10.23 古気候変動研究委員会 公文富士夫

日本における古気候研究の課題の一つが、日本のローカルな気候指標の中から優れたものを選び出して統合し、指標テフラ層を鍵として使って「標準的な層序」を作り上げることだと思います。この日本版の「古気候編年層序」を軸にして各種・各地の資料を比較、検証し、さらなる改訂版を作成していくことによって、日本における第四紀の環境変動や古気候変動を詳細に解明していくことができるものと考えます。そのために、以下のように実働性の高いWSを開催しますので、参加を呼びかけます。

現在猪苗代湖では30mほどの深度までの学術掘削が進行しています。その最初の成果を公開し、研究者間で調整する機会と併せて、長橋会員にお世話をいただいて、福島大学で開催することにしました。皆様方の参加をお待ちしております。より詳細な情報は日本第四紀学会HPを通じて随時お知らせ致します。

開催日時：2012年12月21～23日

12月21日 12:30～15:00 一般向け講演会

「猪苗代湖掘削の成果と第四紀の気候・環境変動（仮題）」

15:30～18:00 猪苗代湖ボーリングコアに関する研究集会

12月22日 研究の発表・紹介（発表者募集します）（懇親会）

12月23日 資料の精選、集成、方法についての討論と方針作成・作業

場所：福島大学共生システム理工学類（福島市金谷川）

（参照 <http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/campusmap/index.html#top>）

目的：「中・後期更新世の古気候情報の編年と統合」を目指してまずは更新世後期における日本版の気候編年層序作成のための試案を作成し、提案する。

宿泊・交通：福島大は福島駅から電車で2駅（金谷川駅下車）なので、福島駅付近のホテルが便利です。予約は各自で。

参加者募集：研究発表は、日本と周辺海域における、指標テフラ（分布と年代論）や各種の古気候プロキシーに関するものに限定させていただきます。

①気候編年を目指して気候指標のデータを提供（公開）して頂ける方

②情報収集のために参加される一般会員・学生の方

申し込み期限と必要情報：

1) 講演（基本は口頭講演）を申し込む方

①講演者名・タイトル、責任者連絡先（e-mail address 必須）：11月22日までに。

懇親会（12月22日夜）への参加の有無もお知らせ下さい。

②要旨およびテフラ・古気候資料の提出：12月3日

*申し込みをいただいた方には様式と詳しい実施計画をお送り致します。

2) 一般参加で講演をしない場合

氏名、連絡先（e-mail address 必須）、懇親会（12月22日夜）への参加の有無

申込先：公文富士夫 電子メールアドレス shkumon(at)shinshu-u.ac.jp

〒390-8621 松本市旭 3-1-1 信州大学理学部物質循環学科

Tel. 0263-37-2479 Fax.0263-37-2560

◆ Island Arc 新名称公募のお知らせ

日本地質学会の公式英文雑誌として Island Arc (当初は The Island Arc) が誕生して 20 年が経過しました。この間、皆様方の積極的な投稿により、Island Arc は国際学術雑誌としての評価を着実に高めつつあります。一方、Island Arc という名称ならびにこの雑誌の大きな出版目的として掲げられている「活動的縁辺域における固体地球科学全般に関する研究成果の出版・・・」により、Island Arc が沈み込み帯とその周辺のテクトニクスや岩石学など、主に地球内部科学を中心とした国際学術雑誌というイメージが多くの方々を持たれてきたことも否めません。本来、Island Arc は地質学雑誌と同様、地球科学全般にわたる広い研究領域をカバーし、さらには、日本ならびにアジアの近隣諸国はもとより、世界の様々な地域における地球科学的現象を迅速に世界に向けて発信するための国際学術雑誌としての使命をもって誕生しました。初版の出版から 20 年の節目を迎え、Island Arc の本来の出版目的がより効果的に達成され、さらには、私たちの研究成果を世界に向けて発信する国際学術雑誌としての飛躍を図るために、Island Arc という雑誌名を刷新し、新たな一歩を踏み出すこととなりました。

日本地質学会ならびに協賛学会の会員の皆様方には、この機会に是非とも魅力ある新しい雑誌名のご提案をお願い申し上げます。

新しい雑誌名の募集は以下の要領で実施させていただきます。皆様方には奮ってご応募いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(1) 新しい雑誌名の条件

- 1) 既に出版されている国内外の学術雑誌名と異なること。
- 2) 地球科学全般をカバーした国際学術雑誌であることがわかること。
*現雑誌名 (Island Arc) の継続が望ましいとお考えの場合には、「Island Arc」を雑誌名として応募いただいて構いません。

(2) 応募方法

- 1) 新しい雑誌名の名称と応募者の氏名と連絡先を明記の上
- 2) Island Arc 編集事務局 (iar-office(at)geosociety.jp) へメールにて応募下さい。
- 3) 応募に関するお問い合わせ先：Island Arc 編集事務局 (iar-office(at)geosociety.jp) までお願いします。

(3) 応募の締め切り

2013 年 1 月 31 日 (木) 必着

(4) 決定方法

Island Arc の編集委員会 (Editor-in-Chief, Executive Editor, Associate Editor, Editorial Advisory Board) で審議と投票により決定

◆北海道大学低温科学研究所 教員公募

1. 公募人数：水・物質循環部門 教授 1名
2. 研究分野：有機地球化学。特に寒冷圏の水・物質循環に関する研究を推進できる方を希望します。
当研究所は、寒冷圏および低温環境下における自然現象の基礎と応用の研究を目的とする共同利用・共同研究拠点の研究所であり、その中で当該部門は、寒冷圏を中心にして、地球上の熱・水・物質の循環と変動に関する研究を中心課題としています。このような理念を理解し、他機関の研究者と共同研究を積極的に遂行するとともに、北海道大学大学院での教育にも十分な能力のある人材を求めます。なお、教育は北海道大学大学院環境科学院を担当して頂く予定です。
3. 着任時期：決定後なるべく早い時期
4. 任期：なし
5. 提出書類：
 - a. 履歴書（連絡先、大学入学以降の学歴、研究・教育歴、学位、受賞歴など）
 - b. 研究業績目録（査読制度のある学術誌に発表した原著論文、総説、著書、その他などに分け、応募者氏名に下線をつける）
 - c. 主要論文別刷あるいはコピー 5編以内（研究業績目録に印をつける）
 - d. 科学研究費などの採択状況
 - e. 国内外の学会などでの活動状況（役職や編集委員などの担当歴、会議やシンポジウムの企画、招待講演など参考になる事項）
 - f. これまでの研究概要と成果（A4用紙に2～3ページ程度）
 - g. 着任後の研究計画・展望および教育・研究に対する抱負など（A4用紙に2～3ページ程度）
 - h. 応募者について意見を伺える方2名の氏名、所属、連絡先電話番号および電子メールアドレス（以上の他に推薦書を添付してもよい）
6. 応募締切：平成25年1月31日（木）必着
7. 書類提出先：〒060-0819 札幌市北区北19条西8丁目
北海道大学低温科学研究所長 古川義純
封筒の表に「水・物質循環部門 教授応募書類」と朱書し、書留でお送り願います。
8. 情報入手、問い合わせ先：
 - a. 研究所の概要、関連する研究分野のスタッフについては、当研究所のホームページ（<http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/>）をご覧ください。
 - b. 問い合わせ先
北海道大学低温科学研究所 教授 渡辺 力
TEL：011-706-5488, FAX：011-706-7142
E-mail：t-wata(at)lowtem.hokudai.ac.jp
9. 個人情報保護：
応募のために提出して頂いた書類等は選考のために限って利用します。選考終了後は、選考を通過した方の情報を除き、当研究所が責任を持ってすべての個人情報を廃棄し、返却いたしません。

◆ 2012 年度第 2 回幹事会議事録

日時：10月27日（土）13:00～17:30
 場所：早稲田大学教育学部 1029 会議室
 出席者：遠藤、竹村、久保、長橋、岡崎、池原、須貝、水野、高田、北村、奥村（学術会議）、中野（事務局）

（報告事項）

- 1) 学会への連絡・寄贈・配布物：7 件
- 2) 原子力規制委員会から破碎帯等の現地調査団員候補者の推薦依頼があり、幹事会で推薦者名簿を作成し、提出した。
- 3) 2014 年大会を東京大学柏キャンパスで行うことについて関係者からの内諾が得られ、正式に依頼することにした。
- 4) 学会賞・学術賞受賞者講演会を 2013 年 3 月 3 日（日）に名古屋で開催する予定であり、あわせて評議員会、幹事会を行うことで調整する。さらに 6 月 22 日（土）にも講演会を計画中である。
- 5) 西日本地区野外巡検として 2013 年 4 月 20～21 日に鳥取砂丘巡検を行う。関東地区での講習会は 2013 年春頃に行う予定。
- 6) 科研費研究成果公開促進費の活動として、11 月 10～11 日に埼玉県川の博物館で野外巡検とミニ講演会を行う。ガイドブックを作成予定。また来年度の科研費申請の準備を進めている。
- 7) 教育アウトリーチ委員会：来年度の科研費研究成果公開促進費にジオパークをテーマとして、シンポジウムと巡検を行うことで申請する。
- 8) 2013 年連合大会セッションとして、「ヒトー環境系の時系列ダイナミクス」を第四紀学会単独開催するほか、5 つの主催・共催セッション提案を行った。
- 9) 男女共同参画学協会連絡会第 3 回大規模アンケートに第四紀学会も協力することとした。
- 10) 第四紀学会のホームページから 2015 年 INQUA 名古屋大会のホームページへのリンクを張った。

- 11) 第四紀研究の 51 巻 5 号を刊行し、6 号を編集集中である。編集委員会は 9 月 29 日に開催した。
- 12) 立正大学大会の第四紀研究特集号については、テフラのテーマセッションから組むこととし、各サブセッションから 1 名編集委員を選出し、特集号編集委員会を組織した。2013 年 6 月発行予定。
- 13) 第四紀研究掲載論文の J-Stage での認証を外すことについて、編集委員会等で意見交換を行い、フリー公開の方向で次回評議員会に提案することにした。
- 14) 2015 年 INQUA 第 19 回大会の日本学術会議への共同主催申請書を INQUA 第 19 回大会組織委員会を中心に作成中である。後援等団体や募金団体などを決め、次回組織委員会幹事会にて最終的な取りまとめを行う。

（審議事項）

- 1) 会費減免申請が 1 件あり、対応を検討した。
- 2) 地球惑星科学連合が計画する国際ジャーナルの編集委員または運営委員について、第四紀学会からは池原 研会員を推薦することとした。
- 3) 2013 年学会賞・学術賞、論文賞奨励賞受賞候補者の推薦締め切りを 2013 年 1 月 31 日とした。また、各賞の選考委員候補者を 11 月中に決定し、受賞候補者推薦締め切りまでに選考委員を確定する日程を確認した。
- 4) 編集委員会規定（案）について検討を行った。次回の編集委員会で再検討し、冬の評議員会で提案できるように整理する。また、投稿規定の論説、総説、短報の制限ページ数についても再検討することとした。
- 5) 印刷会社の組版システムの統合に伴い、2013 年から第四紀研究のフォントが変更になるが、「リューミン R・8.5 ポイント」を用いることにした。また電子入稿の際のファイルの形式について、推奨するデータ形式、解像度を掲載することにした。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：兵頭政幸 (mhyodo(at)kobe-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにはしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学 内海域環境教育研究センター 兵頭政幸
〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 FAX：078-803-5757

広報委員：糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176